

[成果情報名] ブドウ「巨峰」主枝への着色向上のための環状剥皮処理時期

[要約] 短梢せん定仕立ての「巨峰」樹で満開30日から40日後に剥皮幅5mmで主枝に環状剥皮を行うと、果粒の着色が明らかに向上し、収穫時期も早くなる。

[キーワード] ブドウ、環状剥皮、着色向上

[担当] 農林技術開発センター・果樹研究部門・ビワ・落葉果樹研究室

[連絡先] 0957-55-8740

[区分] 果樹

[分類] 普及

[背景・ねらい]

本県ブドウの主要品種である「巨峰」については近年の温暖化の影響により着色遅延及び着色不良が課題となっているため、環状剥皮処理による着色向上技術について検討する。

[成果の内容・特徴]

1. 果房のカラーチャート値は満開30日から40日後に剥皮幅5mmの環状剥皮処理を行うと高くなる（表1、図2）。
2. 果皮中のアントシアニン含量は環状剥皮処理を行った果房の果皮に多く、無処理に比べ1.5倍から1.7倍多い（表1）。
3. 糖度は環状剥皮時期の違いによる差はなく、酸含量は処理時期が遅いほど低い（表2）。
4. 累積収穫房率が8割程度となる時期は無処理では8月20日頃であったが、環状剥皮処理樹では8月10日頃で、環状剥皮を行うと早期に高い収穫率となる（図1）。

[成果の活用面・留意点]

1. 短梢せん定無核果栽培にて実施した調査結果である。
2. 剥皮幅5mmの環状剥皮を行う場合は、あらかじめ5mm幅のテープを準備し、テープをブドウ樹の主枝に貼った後に切り込みを行うほうが作業性は良い。
3. 剥皮部分は癒合促進と害虫対策として、テープなどで被覆する方が良い。
4. 着房過多は着色不良を助長するので、樹勢に応じた適正着房に努める。
5. 環状剥皮により着色が進むため酸含量には十分注意し、良食味果の収穫に努める。

[具体的データ]

表1 環状剥皮処理時期の違いと果房の着色及び果皮中のアントシアニン含量

満開から剥皮 ^γ までの日数	着色		アントシアニン含量 [×] (mg)
	(カラーチャート値)	(着色歩合)	
31日	9.5a ^z	10.0a	0.24ab
43日	8.9b	10.0a	0.25a
52日	7.5c	10.0a	0.22b
無処理	7.2c	9.3b	0.15c

^z 縦の異なる文字間にはTukey多重検定により5%レベルで有意差有り

^γ 環状剥皮処理幅は 5mmとした

[×] 内径10mmのコルクボーラーで打ち抜いた果皮4片中の含量

表2 環状剥皮処理時期の違いと果実品質

満開から剥皮 までの日数	糖度 (Brix)	酸含量 (g/100ml)	果房重 (g)	1粒重 (g)	果粒数
31日	19.8a	0.68a ^z	335.3a	11.0ab	29.7a
43日	19.9a	0.63b	328.4a	10.9ab	30.2a
52日	19.6a	0.58c	312.9a	10.3b	29.6a
無処理	19.4a	0.65ab	350.7a	11.3a	31.2a

^z 縦の異なる文字間にはTukey多重検定により5%レベルで有意差有り

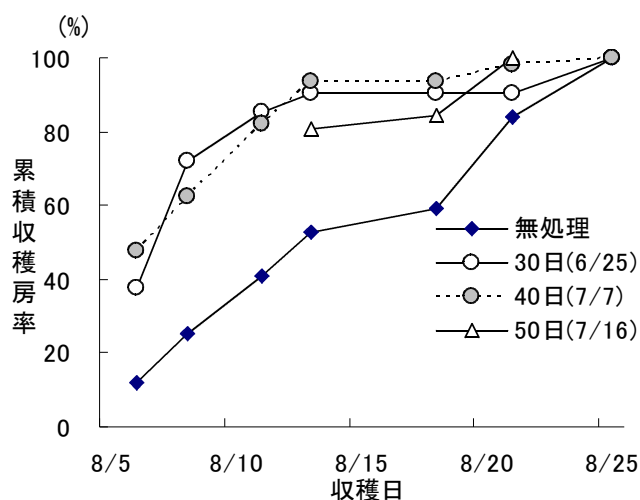


図1 環状剥皮処理時期の違いと累積収穫房率



図2 環状剥皮処理直後の枝(上)と完全に癒合した冬季の状況(下)

[その他]

研究課題名：温暖化に対応した落葉果樹の生育調節技術と低コスト施設栽培の開発

予算区分：県単

研究期間：継 2007～2011年度

研究担当者：松浦 正、林田誠剛、田中 実